

## インターバンクの声（2016年8月25日）

昨夜の海外市場で、英ポンドが対ドルで3週間ぶりに1.32ドル台を回復した。英国の欧州連合(EU)離脱が決定した後、英経済の先行きが前途多難になるとの思惑から、7月上旬にポンド売りが1.28ドル台まで進んだが、足元の英経済に大きな落ち込みがないことや、先行きに対する楽観論も増えてきたことも加わり、ポンドの売りポジションを畳む動きが活発化している。日本勢もEU離脱を決めた国民投票の前後こそ、ポンド取引に積極的に参加していたが、7月中旬以降はいつも通り参加者は欧米勢だけになっているようだ。今週の円相場は相変わらず100円台前半から中盤での値動きが続いており、先週17日以降101円台からも遠ざかったままだ。ニューヨーク連銀のダドリー総裁らが早期の利上げの可能性に言及したこともあって、ジャクソンホールでイエレン米連邦制度理事会(FRB)議長もタカ派的発言をするのではないかの思惑が強まっているが、期待とは裏腹に、実際のポジションは、円ロング・ドルショートで構えている人たちが多らしい。どうも明日まで相場は動きそうもなく、東京市場は今日も我慢の一日になりそうだ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。